ヨハネによる福音書14章

文責め

書記＠

前回のまとめ

本来奴隷がする足を洗うという行為を弟子たちにして、イエスは愛を示された。またイエスはこの中に裏切り者がいると予告し、弟子たちを混乱させ、さらに互いに愛せという新しい掟を作った。

塁：6節の、私を通してでなければ～とは、どういう意味？

♀：イエスを信じず神は信じられない

宮：イエスこそが正しい道を説いている、ということを表したい。

＠：神と人間の間には罪のせいで深い溝がある。イエスの十字架によって、その神のもとへ人間が行けるようになった。（イエスは架け橋）

う：罪のない子羊であるイエスだからこそ、贖罪ができた。

宮：イエスによってその架け橋は完成した。

Ｑ１　父の家ってどんなところ？

♪：う～ん。神の国ですから永遠の命・・・罪から解放されない・・快楽を・・とにかく、永遠の命を得られる。

ｈ：パスで。後で答えます。

Φ：父＝神。つまり神の家。抽象的だが、愛に満ちた世界。住むところはたくさんあるというが、それがどういうことなのかは不明。神の意志が実現した世界。

め：住む場所というのを掘り下げていきたい。

♀：そんな深い意味はない・・が、もし場所がないなら、私が作っておくから心配すんな！とイエス。

う：黙示録21章10節～参照

め：日本だと、懐が広い、という言葉が神にあうかな、と思いました。

Ｑ２　イエスを信じれば業が出来るようになるの？

イエスの行った業を思い出してみましょう

め：イエスの行った業は？

F：業とは・・・つまり、福音を伝えることでしょう？

め：確信をつかれてしまった・・・！具体的にお願いします。

塁：水を葡萄酒に変える・役人の子供を治す・盲人を治す・ラザロを生き返らせる・床に伏していた人を治す・パンと魚を増やす・サマリアの女の過去を言い当てる

う：悪霊を追い出した。

め：F兄のせいでやりにくくなった・・

F：じゃあもう言わないっ

め：あー！ごめんなさい！貴重なご意見を・・・つまり、業というのは、奇跡行為のことではなくて、福音を伝えることだと考ええられる。事実、12使徒たちは各地に散らばり、福音を伝えた。

Φ：愛を持ちながら、苦しんでる人を救うことでは？

め：人を思いやることですね？

う：ルカ9章1節参照。弟子も悪霊を追い出したりした。今でも奇跡行為を行ってる教会がある。愛のために。

＠：エクソシストとか、悪魔祓いは存在してるしね。

♀：このあとの、さもなくば業によって信じなさい、というところから、普通に奇跡行為でいいのかなとも思う。

塁：もう一人の助け主って？

め：弁護者って書いてあるけど、・・

塁：真理の御霊って？

め：それは難しいので最後に。

宮：字が間違ってる（×精霊○聖霊）

聖霊とは言葉によって導く存在

＠：英語では、Counselor

Ｑ３　19節ってどういうこと？

ｈ：私の体は見なくなる。生きるのは、イエスの言葉、場所は、弟子たちの中。

め：世が私を見なくなる、というのは？

ｈ：それが、体がなくなって見えなくなるってこと

宮：物質的な意味で、イエスはいなくなって皆忘れるけど、弟子とか、信じる人がイエスを覚えている→生きている

♀：パスで

♪：んっふ～ん♪（嬉しそうに）一度は信仰を持ってくれた人も、私がいなくなれば、その気持ちも薄れていっちゃうかもしれないけど、お前たちはそんなことはないよね☆というメッセージ？

＠：復活して、弟子たちの前に姿を現したのは有名だけど、この節と関係はあるのかな？

宮：ない、とは言い切れないけど、“世は”と“あなたがたは”でしっかり分けているので・・・？

う：復活しても、またいなくなる。だけども、もう一人の助け主、聖霊が（三位一体）信じる人の内に住む→共にいる、ということ

Ｑ４　27節ってどういうこと？

世の与える平和とイエスの平和の違いは？

Φ：平和というのは、心の安定した状態だとしたら、世が与えるものは一時的なもの、イエスのは永遠のもの。

F：世の平和→物理的な平和（説明難）

イエスの平和→心の安定した状態、比べるのは難しい

＠：パッケージにこの言葉があるけど、もしかして、ヨハネの福音書の中でも特別な言葉なのかな？

め：深い・・・・

F：深くないだろ。むしろ浅い

Φ：なんで世の与える平和は一時的なのか？それはなにか物質に依存しれるから（例えば飯）。イエスの平和は、精神的なもので、持続的なものだけど、それについてもっと掘り下げられるのでは？

ｈ：パス

塁：神の国行けますよってことでの心の平和

Φ：それだけじゃ続かないよ。

う：神様信じてても不安にはなるときはある。牧師の説教→金持ちが二人の画家に、平和について絵をかけと言った。一人は美しい静かな湖。一人は嵐の中で子供を守る鳥。イエスの平和とは、外でどんなことがあっても、守られてるという安心感→心の平和。必要が満たされれば平和、というわけではない。

め：迷わないってことかなぁと思いました。

逆に言えば、イエスは大切なことを満たしてくれるのでは？

＠：イエスを信じる者は、乾くことがない→ずっと満たされてる→永続的な平和

Ｑ５　“事”ってなんのこと？（29節）

め：政木くんズバッと！

♪：十字架にかけられること

Ｑ６”彼は私をどうすることもできない“ってどういうこと？

イエス捕まりますよね

め：彼とはだれ？

F：この世を支配するもの。深読みしてた。

う：この世を支配するもの＝悪魔。だからみんなイエス様に反発する。

Φ：政治家はみんな悪い顔してる

♀：捕まったとしても、教えはどうすることはできない。

＠：イエス死すとも、教えは死せず！

塁：いてぇ、医者よんで来い！って板垣は言った。

宮：肉体こそ死ぬが、霊的な意味では、彼らはどうすることもできない、ということ

め：31節について。予定調和的な？11－49～、お偉いさんのボス（カヤパ）の話参照。

宮：十字架は神の予定。すべては神の意志。

う：捕まえに来た人にも“あえて”捕まった。決定権はイエスにある。逃れようと思えば逃れられる。

め：自分の言いたかったことです。

精霊（→聖霊）について考えよう！

め：イエスは聖霊は自分とは別のものと言い切ってる気がして、これは三位一体に反するのでは？これに対してどう思う？

F：そうだとすると「私は真理」に矛盾するじゃん。

う：三位一体は捉えにくいし、説明しづらいよね。

♀：ハルヒの例え。長門が～

塁：まったくわかんないｗ

♀：えっ！？読んでない？

F：貸してあげてください

め：わかりやすい例えありがとうございます（←こいつホントにわかってんのか！？）

う：日本人の「霊」と混同しがち。聖霊＝神として、頭においておくべき。

♀：神が人と関わるために、人の形→イエス。それ以外→聖霊

宮：聖霊と天使について、その2つの役割の違いとは？聖書の中では

聖霊→内側から語りかけるもの

天使→外・・・？

聖霊を助けるもの

＠：受胎告知で、大天使ガブリエルがマリアに告げた「おめでとう、主があなたと共に歩まれる」伝えたのは天使。孕ませたのは聖霊。役割の違いがわかる。

う：使用人みたいなもの。

イエス様はこれから来る十字架の苦難があるにも関わらず、自分がいなくなっても弟子たちが途方にくれないように、たくさん語りかけてる。